

青少年のための科学の祭典 2018 参加報告

本年10月6日(土)・7日(日)の二日間に渡り、名古屋市科学館/でんきの科学館にて標記の「名古屋大会」が開催されました。私たちは、日本接着学会中部支部のスタッフとして参加しました。この科学の祭典は、子どもたちに、科学への興味・関心を持ってもらえるよう、企業や大学・高校などの教育機関がブースやステージ、ワークショップなどを開催する毎年恒例のイベントです。

日本接着学会中部支部は、「粘着で貼り絵」と「接着で工作」の2つのタイトルで出展し、今回も多くの子どもたちに参加いただきました。来場した子どもたちに“接着の楽しさや接着剤の扱い方を学んでもらう”というテーマの下、自由な発想と創意工夫で貼り絵や工作をしてもらうことで、接着の面白さを体験してもらいました。

「粘着で貼り絵」では、三色(ピンク・水色・黄色)の半透明のシールを使い、各自が選んだ台紙に飾り付けをしてもらいました。重ねて貼るたびに色が変化して多様な色を作りだせるシールに、子どもたちは興味津々な様子でした。自分で想像しながらシールを貼り、思い思いの色や形を作り出すことを通して、接着の楽しさを体験すると同時に、科学に興味を持つきっかけになってくれればと感じました。

「接着で工作」では、グルーガンを用いて様々な形の木材を自由に接着し、作品を完成しました。子どもたちは限られた時間の中で次々に木材をくっつけ、巨大なロケットや家、車など趣向を凝らした作品を仕上げていました。どの作品も素晴らしい出来で、子どもたちの発想力に感心させられました。また、子どもたちは熱をかけることで接着剤へ変化するグルーにも興味を示し、接着を通して科学の楽しさも体験してもらうことができました。

今回のイベントを通して、純粋な科学の面白さに改めて気づききっかけとなったとともに、子どもたちの柔軟な発想に驚かされました。子どもたちの自由な発想で「科学を楽しむ」という気持ちに身近で接し、私たちももう少し初心にかえる必要があると感じました。

名古屋大学大学院 工学研究科 有機・高分子化学専攻 博士前期課程 2年

紺屋 柁人, 伊藤 渚

